



〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町 1-1

URL: <https://www.otemon.ac.jp/>

心のチャックを開いて、まちをのぞく。茨木市の魅力を追大生が作品化 展覧会「イバラキ・チェック・チャック」10月30日から開催

追手門学院大学（大阪府茨木市、学長：真銅 正宏）社会学部社会文化デザインコースの林勇氣教授とゼミの学生9名が、大阪府茨木市民と学生との交流の中で、「つながり合う関係性」をテーマに学生が感じ取った茨木市の魅力を4つの作品としてまとめた展覧会「イバラキ・チェック・チャック」を開催します。

本展覧会は、茨木市のチャレンジいばらき補助金（茨木市提案公募型公益活動支援事業補助制度）に採択されたもので、茨木市まち魅力発信課にも共催いただき、10月30日から11月1日までの3日間、茨木市クリエイトセンターで行います。

「イバラキ・チェック・チャック」は、茨木市への理解と愛着を深めることを目標とし、市内でのフィールドワークを行いながら撮影した写真素材や史料などをもとに4つの作品を制作し、1つの展覧会としたものです。展覧会名の「チェック」には、チェック柄のように、両者の関係性や茨木の魅力を一つひとつ確認していく意味を、「チャック」には、開いて中を覗き、また閉じて心にしまうように、作品を通じて茨木の魅力と出会い、記憶に残してほしいという願いを表しています。

作品①「イバラキ・チェック・チャック」

来場者の方がこれまでに茨木市内で撮影した写真を、会場のチェキ印刷機で印刷し、一言メッセージを添えて、大きなチェック柄に貼ってもらい制作する参加型展示。

作品③「茨木童子の旅」

茨木童子像に市の名所や魅力を表現した特別な衣装をまわせ、衣装に取り付けたQRコードから新スポット「いばきた」を含む魅力を発信する動画へアクセスできる仕掛けで、茨木市の魅力をより身近に感じてもらう作品。

作品②「重なる手、響く声」

約50年前に作られた「こども自身がつくるいばらきの郷土かるた」を学生がリメイクした作品。
茨木市内の名所を訪ねて撮影し、看板の文字を切り取って読み札とすることで、時代を超えた交流と地域の営みの歴史を表現している。

作品④「POSTSCAPE 茨木～ポストを通して見る暮らしの風景～」

会場に設置された複数のポストに内蔵されたタブレットで、投函の様子や茨木のおすすめスポットを紹介する映像を上映。



展覧会ポスター

【展覧会概要】

タイトル：「イバラキ・チェック・チャック」

日時：2025年10月30日～2025年11月1日 12:00～18:00（最終日は12:00～17:00）

場所：茨木市クリエイトセンター・旧喫茶室 1階 喫茶・食堂スペース

料金：観覧料無料、予約不要

主催：追手門学院大学 社会学部 林勇氣ゼミ 茨木市×追大プロジェクト

参加学生：青山明香里、石田咲良、金子綺良々、関口心音、田中柊羽、岐京ノ葉、橋本綾、福岡つばさ、山本理子（社会学部、3年）

共催：茨木市企画財政部まち魅力発信課

協力：公益財団法人茨木市文化振興財団/茨木市建設部公園緑地課/
茨木市市民文化部文化振興課/GRAVITATE OSAKA/八木シンジロウ

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL：072-665-9166 蛸原・織田